

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
I-1- (1)-① 仕事と 子育て の両立 支援	1	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライ フ・バランス 推進事業	女性 活躍 推進 課	誰もが多様な働 き方や生き方を選 択でき、活力ある 豊かな社会を実現 するため、企業等 の取組支援などを 行うとともに、企 業や地域での様々 な活動と連携しな がら仕事と生活の 調和（ワーク・ライ フ・バランス） の推進を図る。	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5% （R1年 度）	目標 R1年度比 （68.5%） 増加 実績 66.2 % 達成率 96.6 %	R1年度比 増加 （R6年 度）	66.3 %	96.8 %	4,543	8,005	5,677	8,400	順調	女性活躍・ワークライフバ ランス表彰受賞者数は、令和 2年度と同程度の実績（R2:6 社→R3:5社）となった。 また、女性活躍・ワーク ライフバランスの推進に関する 企業へのアドバイザー派遣や 各種セミナーの開催等による 支援については、新型コロナ ウイルス感染症拡大の影響を 受け、前年度に引き続き減少 傾向となったが、市内企業の 先進的な取組事例をホーム ページで紹介するなど、方法 を工夫しながら実施すること ができた。 加えて、仕事と生活の調和 が図られていると感じる人の 割合は、令和元年度と同水準 であるため、「順調」と判 断。	【評価理由】 ワーク・ライフ・バランス 推進事業は、女性活躍・ワー クライフバランス表彰や企業 へのアドバイザー派遣、各種 セミナーの開催等により、企 業等への取組支援が着実に進 んでいる。また、仕事と生活 の調和がとれていると感じる 人の割合も安定的に推移して いる。 女性輝き！推進事業は、市 内の女性管理職や女性起業家 の育成、子育て中の女性の就 職支援など、女性の「働く」 に係る幅広い支援を着実に進 めることができた。 以上のことから「順調」と 判断。	企業については、仕事と 生活の調和が図られている と感じる人の割合が今後さ らに上昇していくよう、引 き続き、各種支援を通じて 意識改革を一層推進してい く。また、事業の実施にあ たっては、企業のニーズを 踏まえ、効率的・効果的な 事業実施を検討していく。 女性個人については、働 く女性・働きたい女性が、 各々の希望に応じ、その個 性と能力を十分に発揮して 活躍できるよう、引き続き ウーマンワークカフェ北九 州を拠点としたワンストップ での就業支援を行うとと もに、子育て中の女性でも 相談しやすい体制の強化、 時代のニーズを踏まえたス キルアップ支援など、女性 に寄り添った幅広い支援を 行う。
	2	④ ⑤ ⑧ ⑩	女性輝き！推 進事業	女性 活躍 推進 課	働く女性・働 きたい女性が、各 々の希望に応じ、そ の個性と能力を十 分に発揮し輝ける よう、キャリア アップや就職、創 業支援、子育てと の両立支援等、幅 広く女性の就業を 支援するほか、 ウーマンワークカ フェ北九州の更な る周知広報と新規 利用者の獲得を図 る。	女性の就業率（25 ～44歳）	70% （H27年 国勢調 査）	目標 単年度目標 なし 実績 — 達成率 —	73% （R5年 度）	—	—	11,991	10,250	9,350	9,300	順調	コロナ禍でも実施方法等を 工夫しながら、例年と概ね同 程度の研修等を実施すること ができた。キャリアアップ支 援事業や女性創業支援事業等 に係るセミナー参加者へのア ンケート結果の満足度が9割 に達したことから、「順調」 と判断。	また、女性個人について は、仕事と子育てとの両立や キャリアアップに関する不安 の解消が課題となっている。	
					ダイバーシティ行 動宣言等登録・届 出企業（累計）	597社 （H26年 度）	目標 単年度目標 なし 実績 1,390 社 達成率 —	1,600社 （R6年 度）											

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価 順調	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）						
II-3-(2)-① 政策・方針決定過程への男女共同参画の推進	3	5 8 10	北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム推進事業	女性活躍推進課	女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取組みを推進することにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。	女性役職者（係長級以上）比率 （教職員・消防職員を除く）	17.6% (H30年度)	目標 単年度目標なし	実績 19.6 %	単年度目標なし	23% (R5年度)	4,382	6,608	5,545	10,475	順調	女性職員の能力開発、キャリア形成支援にかかる取組を進め、女性役職者・管理職比率は中長期的には上昇傾向で推移している。 また、テレワークの推進や働き方見直し実践部署コンサルティングの実施により、効率的な働き方を推進したほか、イクボスの実践により、多面評価の「イクボス10カ条」を実践できている管理職の割合も高水準で推移しているため、「順調」と判断。	市職員向けについては、女性管理職の登用について、「2040年40%」の目標達成に向けて、女性職員の育成や能力・両立不安の解消を加速させていく。 また、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する環境づくりとして、男性職員の家庭参画に係る質の向上や役職者以上のイクボス実践を引き続き推進していく。 市民向けについては、男女共同参画社会の形成の推進にあたって効果的な取組を実施するため、市民のニーズ等を踏まえながら講座などの事業内容の見直しに取り組む。 「男女共同参画フォーラムin北九州」や「男女共同参画に関する広報啓発事業」の推進により、市民に対する広報活動を効果的に実施する。 コロナ禍での事業実施を契機に取り入れたオンライン等による講義を進める等により、これまで参加していなかった若年層等を含めた幅広い層を見据えた事業を実施する。 コロナ禍での事業実施を契機に取り入れたオンライン等による講義を進める等により、これまで参加していなかった若年層等を含めた幅広い層を見据えた事業を実施する。
女性管理職（課長級以上）比率 （教職員・消防職員を除く）	13.6% (H30年度)	目標 単年度目標なし	実績 13.1 %	単年度目標なし	15% (R5年度)													
部課長級の多面評価「イクボス10カ条」を実践できている管理職の割合	88.0% (H27年度)	目標 単年度目標なし	実績 94.7 %	単年度目標なし	95% (R5年度)													
男性職員の育児休業取得率	14.8% (H29年度)	目標 単年度目標なし	実績 42.7 %	単年度目標なし	30% (R4年度)													
		達成率	—	—														
		達成率	—	—														
		達成率	—	—														
		達成率	—	—														
		達成率	—	—														
		達成率	—	—														
		達成率	—	—														

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
4	④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑰	男女共同参画センター管理運営事業	男女共同参画センター・ムーブにおいて、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進する。	男女共同参画推進課	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	目標	26.7% (H29年度)	単年度目標 なし	単年度目標 なし	H29年度の水準より減少 (R4年度)	340,537	251,653	250,689	8,950	順調	成果指標としている項目の調査は5年毎に実施のため、達成率は「-」とした。 勤労婦人センター（レディスもじ・やはた）については「公共施設マネジメント実行計画」に基づき令和2年度で用途廃止し、事業見直しを行ったうえでムーブに集約し、令和3年度からはムーブのみの管理運営となっている。 ムーブにおける男女共同参画推進に係る講座数・参加者数は、令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館及び利用者数の制限を行いながらの開催となったが、講座数・参加者数共に増加した。 男女共同参画社会の形成の推進に向けたイベントや講座の開催、就業・キャリアアップ支援、相談事業等は当初の事業計画どおりに進めることができなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として一部の講座で対面ではなくオンラインによる講義等、新たな実施手法等を取り入れ工夫して実施したことから、「順調」と判断。	参加できるイベントや講座となるよう継続的にテーマや事業手法を見直す必要がある。 地域における男女共同参画推進啓発事業は市民を集めて行う活動がベースとなっているが、新型コロナウイルス感染症発生前までの状況に戻るまでは時間を要すると考えられるため、これを契機にオンライン形式を取り入れた開催を積極的に進め、これまでリーチできていなかった方々への啓発拡大に繋げていけるようさらなる工夫が必要である。	
						実績	—	—	80% (R4年度)									
						達成率	—	—										
						目標	69.7% (H29年度)	単年度目標 なし	単年度目標 なし	80% (R4年度)								
						実績	—	—										
						達成率	—	—										
5	④ ⑤ ⑩ ⑰	地域における男女共同参画推進啓発事業【男女共同参画広報・啓発事業】	地域における男女共同参画の推進を図るため、地域で活動している団体・グループ等が企画・実施する広報啓発活動を支援し、男女共同参画に関する理解を深める。	男女共同参画推進課	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	目標	26.7% (H29年度)	単年度目標 なし	単年度目標 なし	H29年度の水準より減少 (R4年度)	745	3,470	2,670	5,050	順調	成果指標としている項目の調査は5年毎に実施のため、達成率は「-」とした。 「男女共同参画フォーラムin北九州」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため令和2年度は中止したが、令和3年度は感染症対策を行いながら25回開催することができた。 「男女共同参画に関する広報啓発事業」はコロナ禍の影響を受けつつも各団体の開催手法の工夫により23回開催し、回数、参加者数ともに増加となった。 いずれもオンライン等の新たな実施手法を取り入れ開催できたことから、「順調」と判断。		
						実績	—	—										
						達成率	—	—										

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施								【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
II-3-(2)-② ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進	6	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライフ・バランス推進事業	女性活躍推進課	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業等の取組支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	68.5% (R1年度)	目標 R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度 比増加	R1年度 比増加 (R6年度)	4,543	8,005	5,677	8,400	順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数は、令和2年度と同程度の実績（R2:6社→R3:5社）となった。 また、女性活躍・ワークライフバランスの推進に関する企業へのアドバイザー派遣や各種セミナーの開催等による支援については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前年度に引き続き減少傾向となったが、市内企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度と同水準であるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 市内企業に向けた取組としては、女性活躍・ワークライフバランス表彰や企業へのアドバイザー派遣、各種セミナーの開催等により、企業等への取組支援が着実に進んでいる。 北九州イクボス同盟については、加盟数が順調に増加している。 市内全体での、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合も安定的に推移している。 市職員向けの取組としては、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進、イクボスマネジメントの実践によって、昨年度に引き続き、男性職員の育児休業取得率は大きく上昇していることから、男性職員が育児休業を当たり前に取得できる組織風土は着実に醸成されてきていると言える。 テレワークの推進については、在宅勤務はもちろん、モバイルワーク等で使用するなど、幅広く活用することで、柔軟かつ効率的な働き方が進んできている。	企業については、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇していくよう、引き続き、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。また、事業の実施にあたっては、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的な事業実施を検討していく。 市内企業等のイクボス推進については、当該同盟の一層の拡大を目指すとともに、本市全体の機運醸成を図る。 市職員向けについては、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する環境づくりとして、男性職員の家庭参画に係る質の向上や役職者以上のイクボス実践を引き続き推進していく。
	7	⑤ ⑧ ⑩	北九州イクボス同盟推進事業	女性活躍推進課	働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	68.5% (R1年度)	目標 R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度 比増加 (R6年度)	R1年度 比増加 (R6年度)	1,500	5,955	5,796	9,550	順調	学生等求職者向けの業界研究会を実施することで、学生等に対して「イクボス」やイクボス推進企業のPRを行い、企業の人材確保支援に繋げていくこと等による加盟インセンティブの拡大を図り、同盟加盟数が増加した（R2:181社→R3:222社）。加えて、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合が令和元年度と同水準のため、「順調」と判断。	順調	【課題】 市内企業向けについては、コロナ禍で女性活躍・ワークライフバランスの推進や働き方改革がより一層求められているところ、意識改革がさらに重要となってくる。そのため、企業への取組支援の効果的なPRを図るとともに、働き方改革等への企業の意識改革につながるような取組を強化する必要がある。 市職員向けについては、女性職員が抱える能力不安や両立不安の解消は引き続き必要であり、加えてワーク・ライフ・バランスの実現及び生産性向上の観点から、働き方改革がさらに求められており、職場全体の意識改革も含めて、取組を加速させる必要がある。	
					働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業（累計）	597社 (H26年度)	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	1,600社 (R6年度)									
								実績 R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度 比増加 (R6年度)	R1年度 比増加 (R6年度)									
								達成率	達成率	達成率									
								96.6 %	96.8 %	96.8 %									
								96.6 %	96.8 %	96.8 %									
								—	—	—									

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 （千円）	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
8	⑤ ⑧ ⑩		北九州市職員 女性活躍・ ワークライフ バランス推進 プログラム推 進事業	女性 活躍 推進 課	女性職員の活躍 とワーク・ライ フ・バランスの推 進は一体的に取組 みを推進すること により相乗効果が 高まるため、女性 活躍推進法に基づ く特定事業主行動 計画「女性活躍推 進アクションプラン （第2期：平成26 年度～30年度）」 と次世代育成支援 対策推進法に基づ く特定事業主行動 計画「北九州市職 員ダイバーシティ 推進プログラム （平成27年度～31 年度）」を整理・ 統合し、令和元年5 月に「北九州市職 員女性活躍・ワーク ライフバランス 推進プログラム」 を策定した。組織 の持続的な成長と 多様化する市民 ニーズへ対応する ため、性別にかか わらず活躍できる 組織風土を醸成 し、全ての職員が 育児や介護等のラ イフスタイルの変 化に応じて柔軟な 働き方を選択する ことで、いきいき と働きがいを持って 活躍できる職場 を目指す。	両立しながら新た な業務等にチャレ ンジしたいと思う 職員の割合	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	80% （R5年 度）	4,382	6,608	5,545	10,475	順調	結婚・子育て期のパート ナーシップ研修やイクボス研 修の実施により、ワーク・ラ イフ・バランスの推進に対す る職員の意識改革が進んだこ とで、男性職員の育児休業取 得率は上昇している。 また、テレワークの推進や 働き方見直し実践部署コンサル ティングの実施により、効 率的な働き方を推進したほ か、イクボスの実践により、 多面評価の「イクボス10カ条 を実践できている管理職の割 合」も高水準で推移している ため、「順調」と判断。		
							実績	—	—									
							達成率	—	—									
						男性職員の育児休 業取得率	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	30% （R4年 度）								
							実績	42.7 %	60.3 %									
							達成率	—	—									
						部課長級の多面評 価「イクボス10か 条を実践できている 管理職の割合」	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	95% （R5年 度）								
							実績	94.7 %	94.0 %									
							達成率	—	—									

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善								
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価
	9	⑤ ⑧ ⑩	テレワーク推 進事業	女性 活躍 推進 課	仕事と生活を両 立する仕組みづく りのひとつとし て、情報通信技術 を活用した柔軟な 働き方の整備を推 進するため、職員 一人一人のライフ ステージや生活ス タイルに合った働 き方を実現できる テレワークの本格 導入に向けて試行 拡充を行う。	在宅勤務の実施人 数 (女性活躍推進課 で管理する端末の 利用分)	—	目標 25 人	30 人	100人 (R2~R4 年度累 計)	6,888	5,330	5,260	5,825	順調	新型コロナウイルス感染症 防止対策や柔軟な働き方の実 現に向けて、在宅勤務や外出 先でのモバイルワークなどに 幅広く活用され、活動・成果 指標が目標を上回ったため、 「順調」と判断。		
					テレワークデイズ への参加	—	目標 30 日		参加の 継続									
								実績 —										
								達成率 —										
II-3- (2)-③ 性別に よる人 権侵害 行為の 根絶	10	⑤ ⑩ ⑰	男女共同参画 基本計画推進 事業（配偶者 等からの暴力 対策事業）	男女 共同 参画 推進 課	配偶者や恋人 等、親しい関係に ある人からの暴力 は、重大な人権侵 害であることを誰 もが認識し、暴力 を容認しない意識 の醸成のための広 報・啓発を行う。	配偶者等との間に おける「平手で打 つ」について、暴 力と認識する人の 割合	71.1% (H29年 度)	目標 単年度目標 なし	単年度目標 なし	80% (R4年 度)	2,834	5,751	4,623	5,050	順調	指標としている項目の調査 は5年毎実施のため、達成率 は「—」とした。 専門的な知見を持つNPO等 と連携して、高校・大学等 でデートDV予防教室を16回行 った。また、警察等関係機関 との連絡会議を令和3年度は オンラインで開催し、DV対策 に係る現況報告や課題の検 討による情報の共有を定期 的に 行っている。 デートDV予防教室回数、受 講者数については、新型コ ロナウイルス感染症対策を 行い、リモート講義の取り 入れ等により昨年度より増 加したため、「順調」と判断。	【評価理由】 高校や大学等でのデートDV 予防教室の実施や関係機関 との連絡会議の開催による 情報共有等、コロナ禍にお いても活動を着実に実施し ていることから、「順調」と 判断。 【課題】 デートDVは重大な人権侵害 であることを誰もが認識し 、暴力を容認しない意識の 醸成のため、積極的な広報 ・啓発活動を継続して実施 する必要がある。	若年層からの取組による 意識改革は重要である。令 和3年度改訂の小・中学生 向け男女共同参画に関する 副読本を用いた、子ども からの男女共同参画への意 識の醸成を図る取組や、 高校・大学等でのデートDV 予防教室、DV啓発リーフレ ット配布の取組などを継続 していく。

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
II-3-(2)-④ 女性の活躍推進	11	⑤ ⑧ ⑩	北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム推進事業	女性活躍推進課	女性職員の活躍とワーク・ライフ・バランスの推進は一体的に取組みを推進することにより相乗効果が高まるため、女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画「女性活躍推進アクションプラン（第2期：平成26年度～30年度）」と次世代育成支援対策推進法に基づく特定事業主行動計画「北九州市職員ダイバーシティ推進プログラム（平成27年度～31年度）」を整理・統合し、令和元年5月に「北九州市職員女性活躍・ワークライフバランス推進プログラム」を策定した。組織の持続的な成長と多様化する市民ニーズへ対応するため、性別にかかわらず活躍できる組織風土を醸成し、全ての職員が育児や介護等のライフスタイルの変化に応じて柔軟な働き方を選択することで、いきいきと働きがいを持って活躍できる職場を目指す。	女性役職者（係長級以上）比率 (教職員・消防職員を除く)	17.6% (H30年度)	目標 単年度目標なし	実績 19.6 %	単年度目標なし	23% (R5年度)	4,382	6,608	5,545	10,475	順調	女性職員の能力開発、キャリア形成支援にかかる取組を進め、女性役職者・管理職比率は中長期的には上昇傾向で推移している。 また、テレワークの推進や働き方見直し実践部署コンサルティングの実施により、効率的な働き方を推進したほか、イクボスの実践により、多面評価の「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」も高水準で推移しているため、「順調」と判断。	【評価理由】 市職員向けの取組としては、各種研修の機会等を通じた女性職員の能力開発やキャリア形成支援の継続により、女性職員の登用は着実に進んできている。 働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進、イクボスマネジメントの実践によって、昨年度に引き続き、男性職員の育児休業取得率は大きく上昇していることから、男性職員が育児休業を当たり前に取得できる組織風土は着実に醸成されてきていると言える。 テレワークの推進については、在宅勤務はもちろん、モバイルワーク等で使用するなど、幅広く活用することで、柔軟かつ効率的な働き方が進んできている。 市内企業等に向けた取組としては、北九州イクボス同盟については、加盟数が順調に増加しており、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合も安定的に推移している。 女性個人に向けた取組については、市内の女性管理職や女性創業者の育成、子育て中の女性の就職支援など、女性の「働く」に係る幅広い支援を着実に進めることができた。 また、ウーマンワークカフェ北九州は、コロナ禍で新規利用者が減少したものの、電話相談等により継続的に支援を行った。また、就職決定率も前年度と同水準であり、安定的に女性の就労に繋げることができている。 次世代活躍応援事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、「理工チャレンジ」体験プログラムの実施は見送るなど事業内容を変更せざるを得なかったが、固定的性別役割分担意識の払拭を目的としたリーフレットを作成し、中学生等への多様な進路選択の意識向上を図った。 以上のことから、「順調」と判断。	市職員向けについては、女性管理職の登用について、「2040年40%」の目標達成に向けて、女性職員の育成や能力・両立不安の解消を加速させていく。 また、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進する環境づくりとして、男性職員の家庭参画に係る質の向上や役職者以上のイクボス実践を引き続き推進していく。 市内企業等のイクボス推進については、当該同盟の一層の拡大を目指すとともに、本市全体の機運醸成を図る。 女性個人については、働く女性・働きたい女性が、各々の希望に応じ、その個性と能力を十分に発揮して活躍できるよう、引き続きウーマンワークカフェ北九州を拠点としたワンストップでの就業支援を行うとともに、子育て中の女性でも相談しやすい体制の強化、時代のニーズを踏まえたスキルアップ支援など、女性に寄り添った幅広い支援を行う。 次世代活躍応援事業については、社会において女性が自らの個性・能力を十分に発揮して活躍するためには、学生時代から性別による固定的役割分担意識をなくし、理工系分野など多様な進路に興味関心を持てるようにすることが重要である。 今後とも、女性の活躍が進んでいない分野を中心に、市内の大学や理工系企業と連携しながら、女子学生の進路選択を支援していく。
女性管理職（課長級以上）比率 (教職員・消防職員を除く)	13.6% (H30年度)	目標 単年度目標なし	実績 13.1 %	単年度目標なし	15% (R5年度)														
部課長級の多面評価「イクボス10カ条を実践できている管理職の割合」	88.0% (H27年度)	目標 単年度目標なし	実績 94.7 %	単年度目標なし	95% (R5年度)														
男性職員の育児休業取得率	14.8% (H29年度)	目標 単年度目標なし	実績 42.7 %	単年度目標なし	30% (R4年度)														

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度		R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由	
12	⑤ ⑧ ⑱	北九州イクボス同盟推進事業	女性活躍推進課	働く人の幸せ、生産性・業績の向上、人材確保に繋がり、その先にある「働きやすいまち北九州」を目指すために、平成29年度に設立した「北九州イクボス同盟」を推進し、経営者・管理職の意識改革を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	目標	68.5% (R1年度)	R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度比 増加	R1年度 比増加 (R6年 度)	1,500	5,955	5,796	9,550	順調	学生等求職者向けの業界研究会を実施することで、学生等に対して「イクボス」やイクボス推進企業のPRを行い、企業の人材確保支援に繋がっていくこと等による加盟インセンティブの拡大を図り、同盟加盟数が増加した（R2:181社→R3:222社）。加えて、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合が令和元年度と同水準のため、「順調」と判断。	【課題】 市職員向けについては、女性職員が抱える能力不安や両立不安の解消は引き続き必要であり、加えてワーク・ライフ・バランスの実現及び生産性向上の観点から、働き方改革がさらに求められており、職場全体の意識改革も含めて、取組を加速させる必要がある。 また、女性個人については、仕事と子育てとの両立やキャリアアップに関する不安の解消が課題となっている。 次世代活躍応援事業については、固定的性別役割分担意識の払拭に向け、次世代を担う児童・生徒の進路選択意識の向上に資する効果的な取組を検討する必要がある。	
						実績	66.2 %	66.3 %										
13	⑤ ⑧ ⑱	テレワーク推進事業	女性活躍推進課	仕事と生活を両立する仕組みづくりのひとつとして、情報通信技術を活用した柔軟な働き方の整備を推進するため、職員一人一人のライフステージや生活スタイルに合った働き方を実現できるテレワークの本格導入に向けて試行拡充を行う。	在宅勤務の実施人数 （女性活躍推進課で管理する端末の利用分）	目標	—	25 人	30 人	100人 (R2~R4 年度累 計)	6,888	5,330	5,260	5,825	順調	新型コロナウイルス感染防止対策や柔軟な働き方の実現に向けて、在宅勤務や外出先でのモバイルワークなどに幅広く活用され、活動・成果指標が目標を上回ったため、「順調」と判断。		
						実績	—	82 人	32 人									達成率
					テレワークデイズへの参加	目標	—	30 日										
						実績	—											
						達成率	—											

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	
14	④ ⑤ ⑧ ⑩		女性輝き！推 進事業	女性 活躍 推進 課	働く女性・働きたい女性が、各々の希望に応じ、その個性と能力を十分に発揮し輝けるよう、キャリアアップや就職、創業支援、子育てとの両立支援等、幅広く女性の就業を支援するほか、ウーマンワークカフェ北九州の更なる周知広報と新規利用者の獲得を図る。	女性の就業率（25～44歳）	70% (H27年 国勢調査)	目標 単年度目標 なし	実績 —	73% (R5年 度)	11,991	10,250	9,350	9,300	順調	コロナ禍でも実施方法等を工夫しながら、例年と概ね同程度の研修等を実施することができた。キャリアアップ支援事業や女性創業支援事業等に係るセミナー参加者へのアンケート結果の満足度が9割に達したことから、「順調」と判断。		
					ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業（累計）	597社 (H26年 度)	目標 単年度目標 なし	実績 1,390 社	1,600社 (R6年 度)	達成率 —								
15	⑤ ⑧ ⑩		ウーマンワークカフェ北九州運営事業	女性 活躍 推進 課	女性の就職・キャリアアップ・創業などをワンストップで支援する「ウーマンワークカフェ北九州」を運営する。	女性の就業率（25～44歳）	70% (H27年 国勢調査)	目標 単年度目標 なし	実績 —	73% (R5年 度)	31,649	32,514	31,528	6,800	やや遅れ	ウーマンワークカフェ北九州の運営については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和2年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、施設開設5周年にあたり、講演会やセミナー、合同企業説明会などを実施し、主に子育て中の女性の就業促進とウーマンワークカフェ北九州のさらなる周知を図った。その結果、電話相談を含めた窓口相談件数は7,702件と、前年度（6,140件）を上回ったが、新規利用者数は、当初の目標に対しての達成率が60%未満のため、「やや遅れ」と判断。		
					ウーマンワークカフェ北九州新規利用者数	—	目標 3,340 人	実績 1,983 人	3,500人 (R6年 度)	達成率 59.4 %								

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度				R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度	中期 目標		予算額 （千円）	決算額 （千円）		事業 評価	評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	
II-3-(4)-① 平和の 尊さへの理解 の促進	16	④ ⑤ ⑧ ⑩	次世代活躍応援事業	女性 活躍 推進 課	女性の就職促進 を目指し、性別に よる固定的な価値 観や生き方を払拭 するため、学生の 頃から「多様な働 き方」などの啓発 に取り組む。 また、子ども・ 学生の成長段階に あわせた研究・職 業体験プログラムの 提供に取り組む 高等教育機関を支 援する。	女性の就業率（25 ～44歳）	70% （H27年 国勢調 査）	目標 単年度目標 なし	実績 —	73% （R5年 度）	1,342	3,980	1,946	4,825	順調	新型コロナウイルス感染症 の影響により、女子中学生が 理工系の企業等を訪問する 「理工チャレンジ」体験プロ グラムは中止としたが、その 代替として、当該プログラム に参加予定であった企業等の 協力を得て、理工系分野で活 躍する女性や家事や育児にも 積極的に関わる男性をロール モデルとして紹介するリーフ レットの作成を行い、中学生 等に配布し、多様な進路選択 の支援を行うことができたこ とから、「順調」と判断。			
					ウーマンワークカ フェ北九州新規利 用者数	—	目標 3,340 人	実績 1,983 人	3,500人 （R6年 度）										
							達成率 59.4 %												
	17	④	（仮称）平和 資料館建設事 業	平和の まち ミュ ージ アム	戦後70年余りが 経過し、悲惨な戦 争の記憶の風化が 懸念され、戦争の 記憶を後世に伝え ることが重要と なっている。改め て、戦争の悲惨さ を市民に伝え、平 和の大切さ、命の 尊さを考えるきっ かけとするため、 新たに「（仮称） 平和資料館」の建 設に向けた取組み を行う。	（仮称）平和資料 館の建設	—	目標 建築工事・ 展示製作等 の実施	実績 建築工事・ 展示製作等 の実施	（仮称） 平和資 料館の 建設	201,226	386,346	712,890	44,000	順調	令和4年4月下旬の開館に向 けて、工事や展示制作等が完 了したため「順調」と判断。	【評価理由】 令和4年4月下旬の平和のま ちミュージアム開館に向けた 工事や展示制作等が完了し た。 また、新型コロナウイルス 感染症拡大により、長崎市平 和派遣事業は中止したもの の、ピースフォーラム派遣事 業はオンライン開催ができ、 嘉代子桜・親子桜についても 植樹が順調に植樹が進んでお り、戦争の悲惨さや平和の尊 さを市民に伝える取組を着実 に実施しているため「順調」 と判断。	順調	ミュージアムの円滑な運 営に努める。また、様々な 企画展を実施するなど、来 場促進に努める。 また、引き続き「嘉代子 桜・親子桜」の植樹や長崎 市が主催する「青少年ピー スフォーラム」への小中高 校生の派遣、親子で平和の 尊さを考えるための「長崎 市平和派遣事業」等に取り 組み、戦争の記憶を後世に 伝えていく。
							達成率 —												
	18	④	非核・平和推 進事業	平和の まち ミュ ージ アム	本市の平和に対 する基本的姿勢を 示す「北九州市非 核平和都市宣言」 に込められた平和 への願いを市民に 伝えるため、また、 悲惨な戦争の記憶 を風化させること なく次の世代に 伝えるため、事業 を実施するもの。	市民が平和の尊さ を理解し、共有し ていくこと	—	目標 —	実績 —	市民が 平和の 尊さを 理解す ること	2,619	10,000	1,688	6,400	順調	青少年ピースフォーラム派 遣事業については、新型コ ロナウイルス感染症の影響で中 止になったが、リモートで参 加することができた。また、 嘉代子桜・親子桜について は、目標を上回る箇所への植 樹が完了し、嘉代子桜・親子 桜を通じた平和の尊さの共有 を図ることができた。以上の 点から「順調」と判断。			
							達成率 —												

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
Ⅲ-3-(3)-① 市民参画と協働のための仕組みづくり	19	⑩	北九州市自治基本条例推進事業	総務課	本市の自治の基本的ルールを定めた「北九州市自治基本条例」（平成22年10月1日施行）の意義や理念などを多くの市民に理解してもらうため、周知等を行う。また、情報共有や住民参画の視点から業務を行い、条例の目指すまちづくりができるよう、職員向けの研修を行う。	市民が主役の自治（市民自治）の確立	—	目標 —	—	市民自治の確立	576	1,110	718	4,650	順調	中学生用副読本の作成・配付、市職員への研修、大学での新入生に向けた講演、市民文化スポーツ局が主催した「北九州市自治会活動応援事業者表彰式」での説明実施等により、条例に対する理解が深まっているものと考え、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 中学生用副読本の配布、市職員への研修の実施、「北九州市自治会活動応援事業者表彰式」での説明等、条例に対する理解を深め、市政への市民参画の重要性について考えてもらうための各種取組により、市民の関心を高めていることから、「順調」と判断。 【課題】 自治基本条例に対する理解を深め、市民の市政への更なる参画を推進する必要がある。	引き続き、市民への周知活動や職員への研修等を実施していく。特に若年層への認知度の向上を図り、自治基本条例に対する理解と市政への市民参画を推進していく。
Ⅲ-3-(3)-③ 企業の地域活動への参画促進	20	⑤ ⑧ ⑩	ワーク・ライフ・バランス推進事業	女性活躍推進課	誰もが多様な働き方や生き方を選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業等の取組支援などを行うとともに、企業や地域での様々な活動と連携しながら仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図る。	仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合	68.5% (R1年度)	目標 R1年度 (68.5%) 比増加	R1年度比 増加	R1年度 比増加 (R6年度)	4,543	8,005	5,677	8,400	順調	女性活躍・ワークライフバランス表彰受賞者数は、令和2年度と同程度の実績（R2:6社→R3:5社）となった。 また、女性活躍・ワークライフバランスの推進に関する企業へのアドバイザー派遣や各種セミナーの開催等による支援については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、前年度に引き続き減少傾向となったが、市内企業の先進的な取組事例をホームページで紹介するなど、方法を工夫しながら実施することができた。 加えて、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合は、令和元年度と同水準であるため、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 ワーク・ライフ・バランス推進事業は、女性活躍・ワークライフバランス表彰や企業へのアドバイザー派遣、各種セミナーの開催等により、企業等への取組支援が着実に進んでいる。また、仕事と生活の調和がとれていると感じる人の割合も安定的に推移している。 以上のことから「順調」と判断。 【課題】 コロナ禍で女性活躍・ワークライフバランスの推進や働き方改革がより一層求められているところ、企業については、意識改革がさらに重要となってくる。そのため、企業への取組支援の効果的なPRを図るとともに、働き方改革等への企業の意識改革につながるような取組を強化する必要がある。	企業については、仕事と生活の調和が図られていると感じる人の割合が今後さらに上昇していくよう、引き続き、各種支援を通じて意識改革を一層推進していく。また、事業の実施にあたっては、企業のニーズを踏まえ、効率的・効果的な事業実施を検討していく。

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R3年度 評価の理由	局施策 評価	局施策評価の理由及び課題	R5年度予算要求に向けた 施策の方向性	
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)							決算額 (千円)
IV-3-(2)-① 若年者の就業意識の啓発や能力開発・就職活動への支援	21	④ ⑤ ⑧ ⑩	次世代活躍応援事業	女性活躍推進課	女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。 また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムの提供に取り組む高等教育機関を支援する。	女性の就業率（25～44歳）	目標	単年度目標なし	単年度目標なし	73% (R5年度)	1,342	3,980	1,946	4,825	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、女子中学生が理工系の企業等を訪問する「理工チャレンジ」体験プログラムは中止としたが、その代替として、当該プログラムに参加予定であった企業等の協力を得て、理工系分野で活躍する女性や家事や育児にも積極的に関わる男性をロールモデルとして紹介するリーフレットの作成を行い、中学生等に配布し、多様な進路選択の支援を行うことができたことから、「順調」と判断。	順調	【評価理由】 次世代活躍応援事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、「理工チャレンジ」体験プログラムの実施は見送るなど事業内容を変更せざるを得なかったが、固定的性別役割分担意識の払拭を目的としたリーフレットを作成し、中学生等への多様な進路選択の意識向上を図ったため、「順調」と判断。 【課題】 固定的性別役割分担意識の払拭に向け、次世代を担う児童・生徒の進路選択意識の向上に資する効果的な取組を検討する必要がある。	社会において女性が自らの個性・能力を十分に発揮して活躍するためには、学生時代から性別による固定的役割分担意識をなくし、理工系分野など多様な進路に興味関心を持てるようにすることが重要である。 今後とも、女性の活躍が進んでいない分野を中心に、市内の大学や理工系企業と連携しながら、女子学生の進路選択を支援していく。
							実績	—	—										
							達成率	—	—										
						ウーマンワークカフェ北九州新規利用者数	目標	3,340 人	3,500人 (R6年度)										
実績	1,983 人																		
達成率	59.4 %																		
IV-3-(2)-② 女性が活躍する産業都市づくりの推進	22	④ ⑤ ⑧ ⑩ ⑰	男女共同参画センター管理運営事業	男女共同参画推進課	男女共同参画センター・ムーブにおいて、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進する。	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	目標	単年度目標なし	単年度目標なし	H29年度の水準より減少 (R4年度)	340,537	251,653	250,689	8,950	順調	成果指標としている項目の調査は5年毎に実施のため、達成率は「—」とした。 勤労婦人センター（レディスもじ・やはた）については「公共施設マネジメント実行計画」に基づき令和2年度で用途廃止し、事業見直しを行ったうえでムーブに集約し、令和3年度からはムーブのみの管理運営となっている。 ムーブにおける男女共同参画推進に係る講座数・参加者数は、令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館及び利用者数の制限を行いながらの開催となったが、講座数・参加者数共に増加した。 男女共同参画社会の形成の推進に向けたイベントや講座の開催、就業・キャリアアップ支援、相談事業等は当初の事業計画どおりに進めることができなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の一環として一部の講座で対面ではなくオンラインによる講義等、新たな実施手法を取り入れ工夫して実施したことから、「順調」と判断。	【評価理由】 市民向けの取組として、男女共同参画センターにおいて、男女共同参画社会の形成の推進に向けたイベントや講座の開催、就業・キャリアアップ支援、相談等を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館及び利用者数の制限を行いながらの開催となったが、講座数・参加者数共に増加しており、オンライン等による講義等、工夫して実施している。 また、「男女共同参画フォーラムin北九州」や「男女共同参画に関する広報啓発事業」の推進により、市民に対する広報活動を効果的に実施する。 コロナ禍での事業実施を契機に取り入れたオンライン等による講義を積極的に進める等により、これまで参加していなかった若年層等を含めた幅広い層を見据えた事業を実施する。 女性個人については、働く女性・働きたい女性が、各々の希望に応じ、その個性と能力を十分に発揮して活躍できるよう、引き続きウーマンワークカフェ北九州を拠点としたワンストップでの就業支援を行うとともに、子育て中の女性でも相談しやすい体制の強化、時代のニーズを踏まえたスキルアップ支援など、女性に寄り添った幅広い支援を行う。 さらに、社会において女		
							実績	—	—										
							達成率	—	—										
						男女共同参画社会という言葉の認知度	目標	単年度目標なし	単年度目標なし										
							実績	—	—										
							達成率	—	—										

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施		【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度 決算額 （千円）	R3年度		人件費 （目安） 金額 （千円）	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 （基準値）	R2年度	R3年度		中期 目標	予算額 （千円）		決算額 （千円）	事業 評価	評価の理由	
23	④ ⑤ ⑧ ⑩		女性輝き！推 進事業	女性 活躍 推進 課	働く女性・働 きたい女性が、各々 の希望に応じ、そ の個性と能力を十 分に発揮し輝ける よう、キャリア アップや就職、創 業支援、子育てと の両立支援等、幅 広く女性の就業を 支援するほか、 ウーマンワークカ フェ北九州の更なる 周知広報と新規 利用者の獲得を図 る。	女性の就業率（25 ～44歳）	70% （H27年 国勢調 査）	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% （R5年 度）	11,991	10,250	9,350	9,300	順調	的に女性の就労に繋げること ができています。 次世代活躍応援事業につ いては、新型コロナウイルス感 染症の影響により、「理工 チャレンジ」体験プログラ ムの実施は見送るなど事業内 容を変更せざるを得なかつた が、固定的性別役割分担意識 の払拭を目的としたリーフ レットを作成し、中学生等へ の多様な進路選択の意識向上 を図った。 また、北九州イクボス同盟 については、加盟数が順調に 増加しており、仕事と生活の 調和がとれていると感じる人 の割合も安定的に推移してい る。 以上のことから、「順調」 と判断。 【課題】 男女共同参画センター・ ムーブにおいては、男女共同 参画社会の形成を一層推進す るため、より多くの方が関心 を持って参加できるイベント や講座となるよう継続的に テーマや事業手法を見直す必 要がある。 地域における男女共同参画 推進啓発事業は市民を集めて 行う活動がベースとなってい るが、新型コロナウイルス感 染症発生前までの水準に戻る までは時間を要すると考えら れるため、これを契機にオン ライン形式を取り入れた開催 を積極的に進め、これまで リーチできていなかった市民 への啓発拡大に繋げていける ようさらなる工夫が必要であ る。 また、女性個人について は、仕事と子育てとの両立や キャリアアップに関する不安 の解消が課題となっている。 次世代活躍応援事業につ
								実績	—	—							
24	⑤ ⑧ ⑩		北九州イクボ ス同盟推進事 業	女性 活躍 推進 課	働く人の幸せ、 生産性・業績の向 上、人材確保に繋 がり、その先にあ る「働きやすいま ち北九州」を目指 すために、平成29 年度に設立した 「北九州イクボス 同盟」を推進し、 経営者・管理職の 意識改革を図る。	仕事と生活の調和 が図られていると 感じる人の割合	68.5% （R1年 度）	目標	R1年度 （68.5%） 比増加	R1年度比 増加	R1年度 比増加 （R6年 度）	1,500	5,955	5,796	9,550	順調	学生等求職者向けの業界研 究会を実施することで、学生 等に対して「イクボス」やイ クボス推進企業のPRを行い、 企業の人材確保支援に繋げて いくこと等による加盟インセ ンティブの拡大を図り、同盟 加盟数が増加した（R2:181社 →R3:222社）。加えて、仕事 と生活の調和がとれていると 感じる人の割合が令和元年度 と同水準のため、「順調」と 判断。
								実績	66.2 %	66.3 %							
					ダイバーシティ行 動宣言等登録・届 出企業（累計）	597社 （H26年 度）	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	1,600社 （R6年 度）							
				実績			1,390 社	1,523 社	達成率		—	—					

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由	
25	⑤ ⑧ ⑩	ウーマンワークカフェ北九州運営事業	女性活躍推進課	女性の就職・キャリアアップ・創業などをワンストップで支援する「ウーマンワークカフェ北九州」を運営する。	女性の就業率（25～44歳）	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% (R5年度)	31,649	32,514	31,528	6,800	やや遅れ	ウーマンワークカフェ北九州の運営については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて来所を自粛する女性が多かったため、令和2年度に引き続き、電話相談等でも対応を行った。また、施設開設5周年にあたり、講演会やセミナー、合同企業説明会などを実施し、主に子育て中の女性の就業促進とウーマンワークカフェ北九州のさらなる周知を図った。その結果、電話相談を含めた窓口相談件数は7,702件と、前年度（6,140件）を上回ったが、新規利用者は、当初の目標に対しての達成率が60%未満のため、「やや遅れ」と判断。	ては、固定的性別役割分担意識の払拭に向け、次世代を担う児童・生徒の進路選択意識の向上に資する効果的な取組を検討する必要がある。	
						実績	—	—									
						達成率	—	—									
					ウーマンワークカフェ北九州新規利用者数	目標	3,340 人	3,380 人	3,500人 (R6年度)								
						実績	1,983 人	1,797 人									
						達成率	59.4 %	53.2 %									
26	④ ⑤ ⑧ ⑩	次世代活躍応援事業	女性活躍推進課	女性の就職促進を目指し、性別による固定的な価値観や生き方を払拭するため、学生の頃から「多様な働き方」などの啓発に取り組む。また、子ども・学生の成長段階にあわせた研究・職業体験プログラムの提供に取り組む高等教育機関を支援する。	女性の就業率（25～44歳）	目標	単年度目標 なし	単年度目標 なし	73% (R5年度)	1,342	3,980	1,946	4,825	順調	新型コロナウイルス感染症の影響により、女子中学生が理工系の企業等を訪問する「理工チャレンジ」体験プログラムは中止としたが、その代替として、当該プログラムに参加予定であった企業等の協力を得て、理工系分野で活躍する女性や家事や育児にも積極的に関わる男性をロールモデルとして紹介するリーフレットの作成を行い、中学生等に配布し、多様な進路選択の支援を行うことができたことから、「順調」と判断。		
						実績	—	—									
						達成率	—	—									
					ウーマンワークカフェ北九州新規利用者数	目標	3,340 人		3,500人 (R6年度)								
						実績	1,983 人										
						達成率	59.4 %										

令和3年度 行政評価の取組結果（総務局）

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）				R2年度	R3年度		人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度			R5年度予算要求に向けた 施策の方向性		
						指標名等	現状値 (基準値)	R2年度	R3年度	中期 目標	決算額 (千円)	予算額 (千円)		決算額 (千円)	事業 評価	評価の理由		局施策 評価	局施策評価の理由及び課題
VII-1-(3)-③ 社会制度や社会問題 などに関する国際協力の 推進	27	④ ⑤ ⑩	(公財) アジア女性交流・ 研究フォーラム事業	男女共同参画推進課	「国際的な最新情報の収集・発信」「成果の地域還元」「あらゆる分野での女性のエンパワメント」「次世代育成」「情報提供の充実」を目指し、様々な事業を実施する、(公財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援する。	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	26.7% (H29年度)	目標 単年度目標なし	実績 —	達成率 —	—	H29年度の水準より減少 (R4年度)	39,000	39,000	39,000	4,050	順調	<p>【評価理由】</p> <p>テーマや対象を絞り込んだ国際会議やセミナーの開催等、市民の理解促進に向け改善を加えながら実施しており、参加者の満足度も高いことから「順調」と判断。</p> <p>【課題】</p> <p>本市の男女共同参画社会の形成の推進に向け、課題認識や解決につながる取組を進めていく。より効率的・効果的に実施するため、選択と集中により事業の見直し等を検討する必要がある。</p>	<p>本市の男女共同参画社会の形成の推進に向け、フォーラムのあり方についての検討結果に基づき、具体的な取組を進める。</p>
					男女共同参画社会という言葉の認知度	69.7% (H29年度)	目標 —	実績 —	達成率 —	—	—	80% (R4年度)							